

## R4 年度地域経済動向について

○甲府商工会議所 LOBO 調査（早期景気観測調査）

※LOBO 調査とは

CCI（CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY）－THE QUICK SURVEY SYSTEM

OF LOCAL BUSINESS OUTLOOK－（商工会議所早期景気観測）からとった略称であり、甲府市を中心とした中小企業の景況感を観測し、経済環境の把握と改善への資料とするため実施している調査。

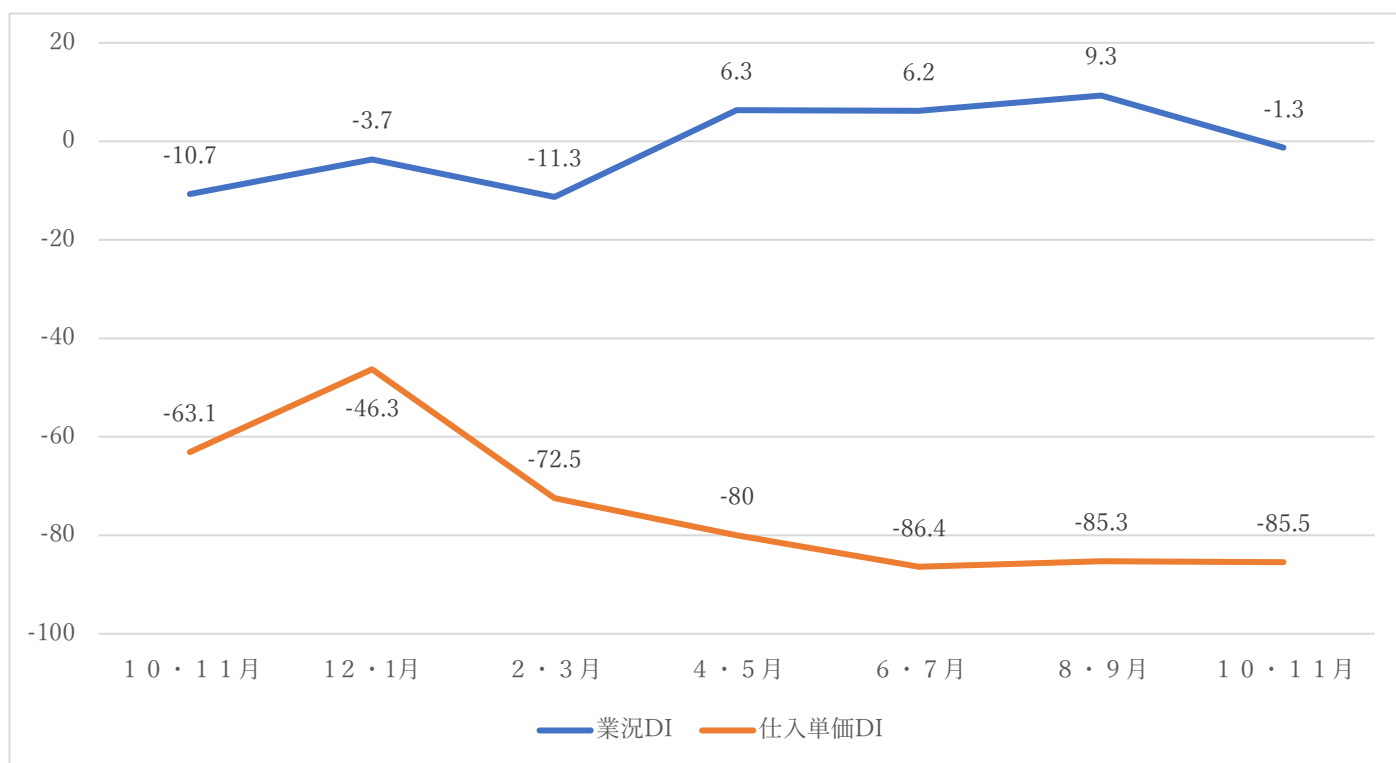
甲府商工会議所では 2 カ月に 1 度、年間計 6 回調査を実施している。

※DI 値（景況判断指数）とは

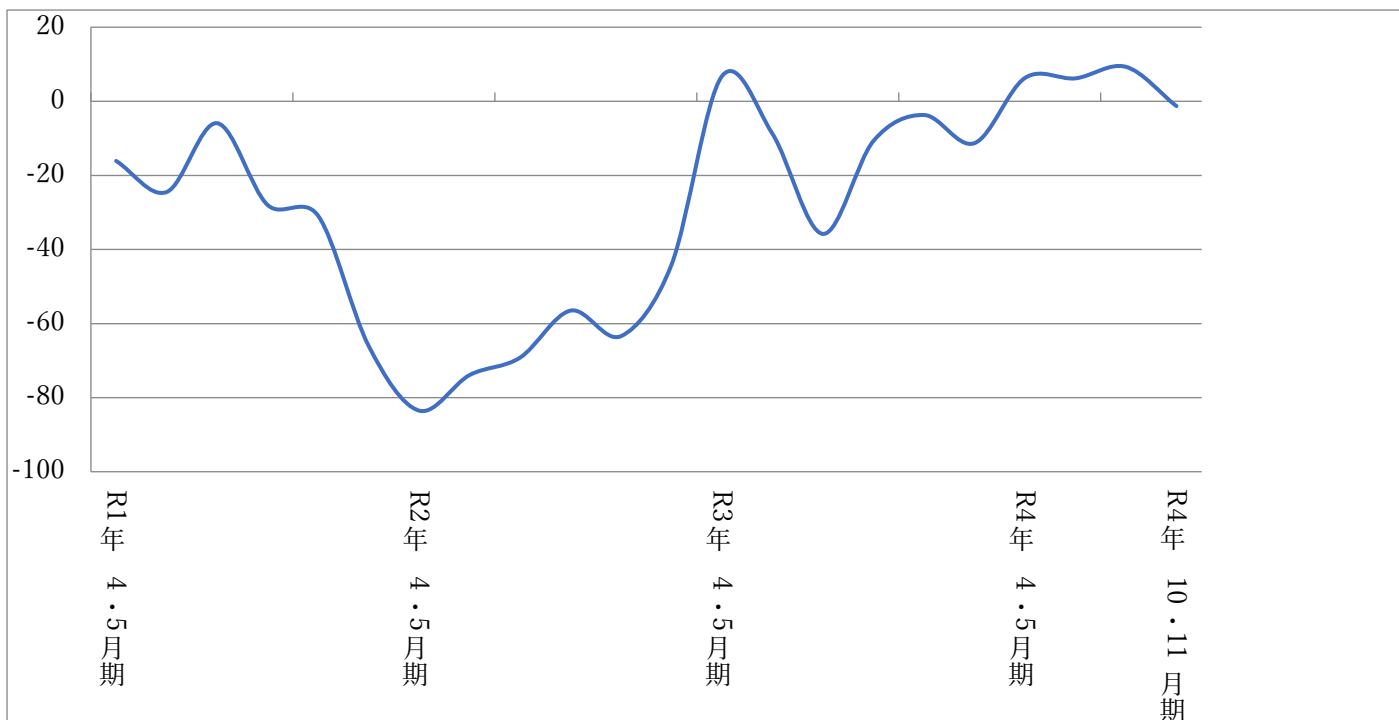
DI 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

## 【R3.10-11 月期から R4.10-11 月期までの LOBO 調査結果について】

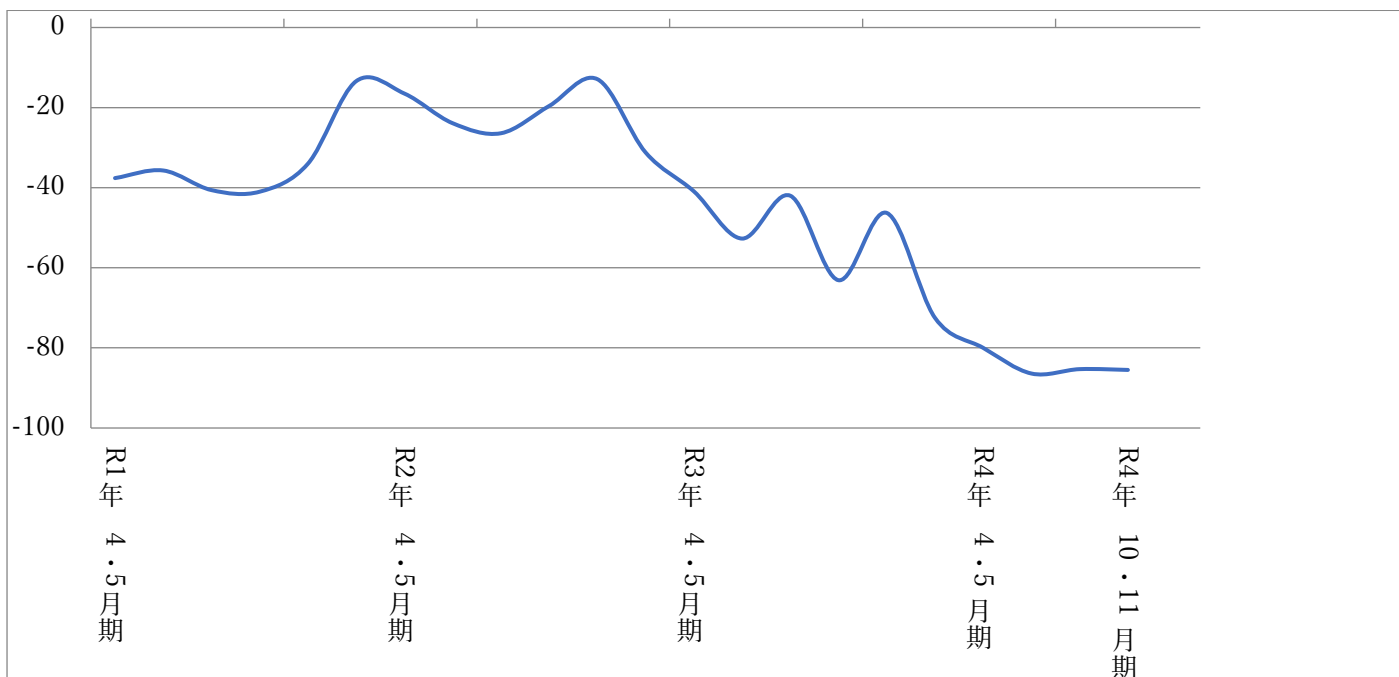
	R3 10・11月		12・R4.1月		2・3月		4・5月		6・7月		8・9月		10・11月	
業況 DI	▲ 10.7	↑	▲ 3.7	↑	▲ 11.3	↓	6.3	↑	6.2	↓	9.3	↑	▲ 1.3	↓
仕入単価 DI	▲ 63.1	↓	▲ 46.3	↑	▲ 72.5	↓	▲ 80.0	↓	▲ 86.4	↓	▲ 85.3	↑	▲ 85.5	↓



【参考①：R1.4-5 月期から R4.10-11 月期までの業況 DI 値】



【参考②：R1.4-5 月期から R4.10-11 月期までの仕入単価 DI 値】



【R4.10-11 月期の調査企業からのコメント】

- ・外国人の入国規制緩和もあり、ホテル及び観光関連の引合いが増加。ただ、全てコスト（原材料、資材、光熱費、人件費）が上昇し経常利益では昨年並。（製造業）
- ・仕入原価や燃料費が高騰しており、販売価格への転嫁もできていない。（卸売業）
- ・人件費の上昇や材料費の高騰により、厳しい状況が続いている。（小売業）
- ・コロナ禍の影響だけでなく、物価高騰や燃料価格の高騰も影響を受けている。会社全体としては昨年より好転しているが、コロナ禍前と比較するとまだまだな状況。（観光業）

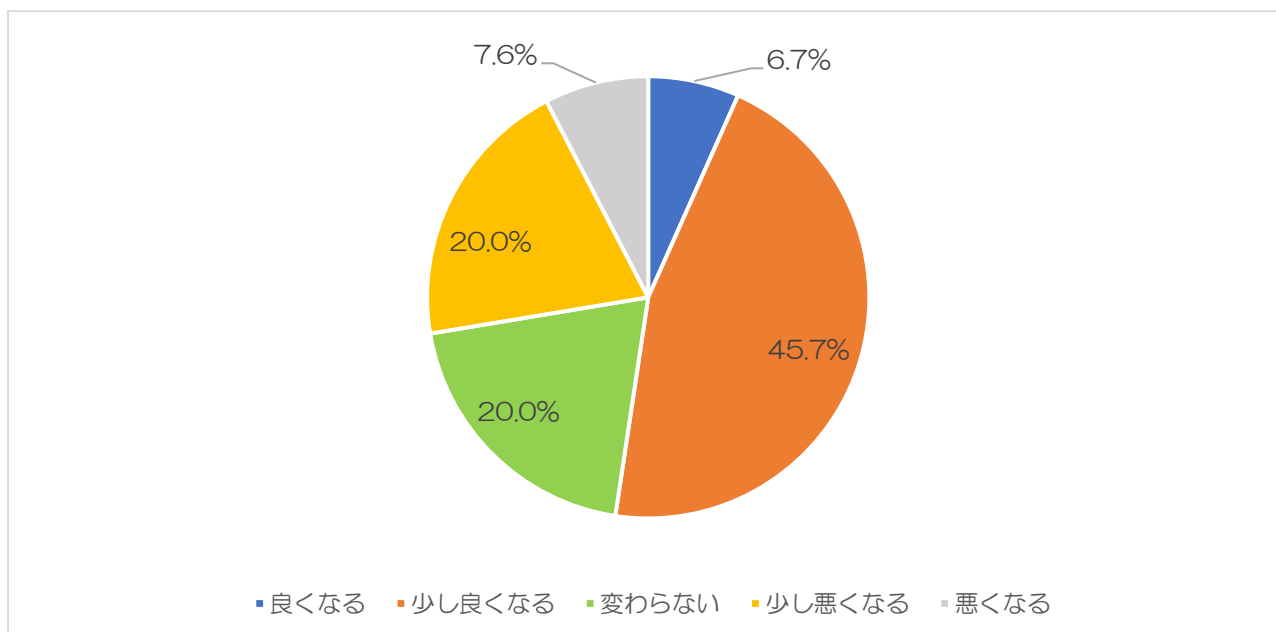
※全業種にて物価高騰やコスト増加により利益が厳しいというコメントあり。

## ○2023年景気予測調査

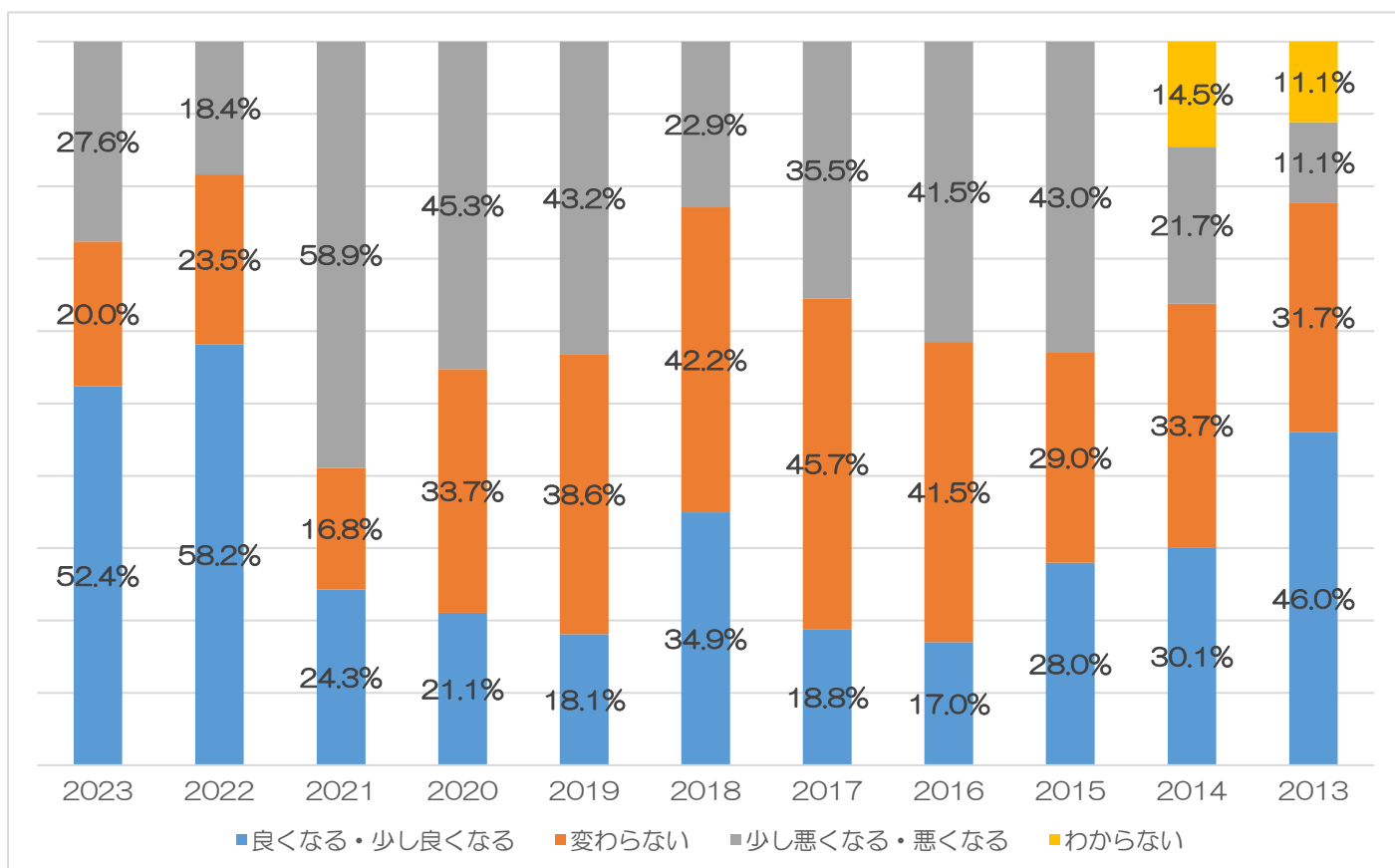
※景気予測調査とは

毎年12月を目途に、県内景気の動向を予測するため調査を実施している。

### 【来年（2023年）の山梨県内における景気予測】

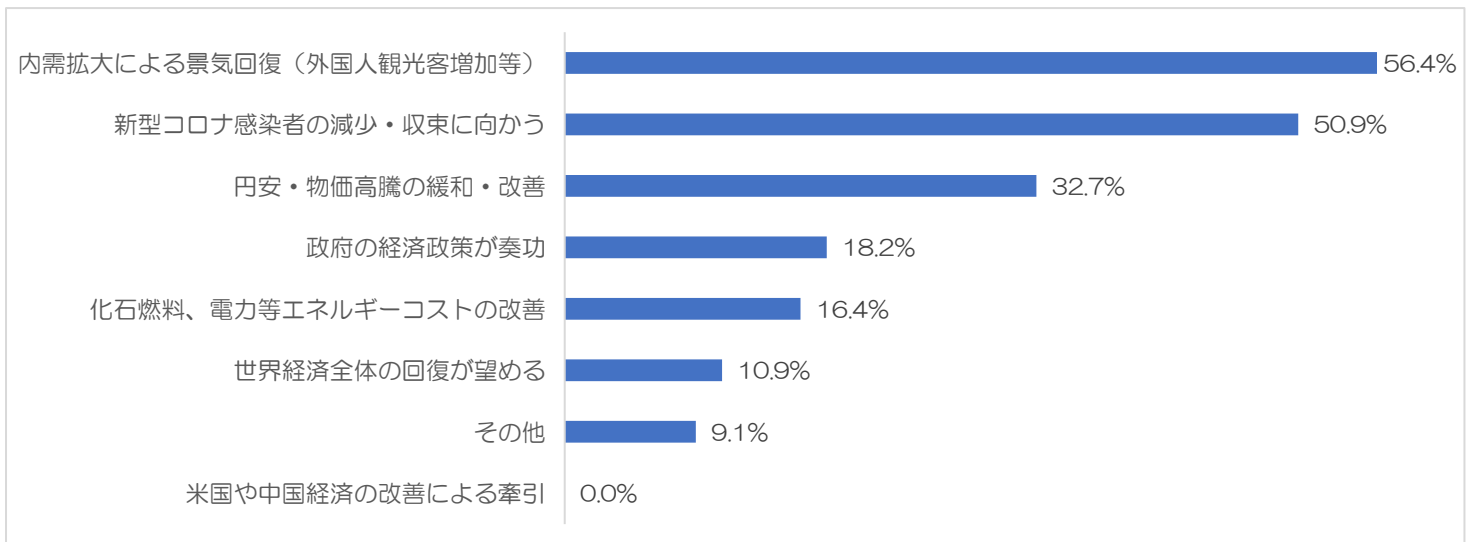


### 【参考①：来年（2023年）の山梨県内における景気予測（年度比較）】



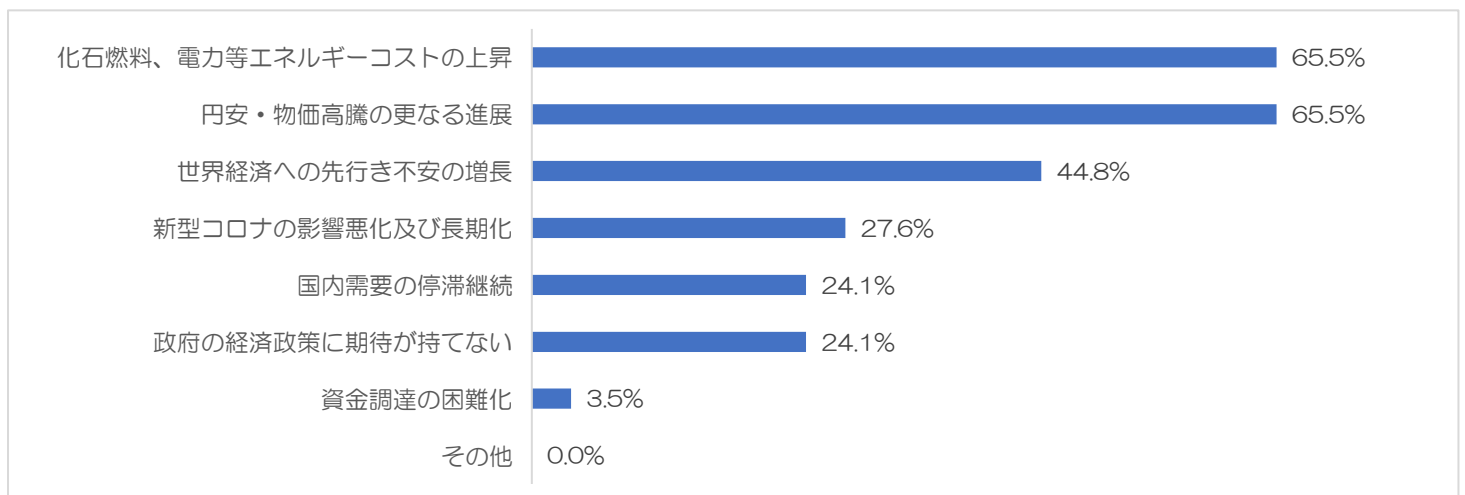
※「2015年景気予測調査」以降より「わからない」の選択肢を削除。

### 【来年良くなる、少し良くなると予測する理由】



※その他：・各社の自社努力によって  
・特になし、個人的な考え

### 【来年悪くなる、少し悪くなると予測する理由】



### ○所感

コロナ禍も約3年経ち、コロナ感染者数が増加傾向ではあるが、R2やR3の時のような緊急事態宣言等の規制がないことや、政府の旅行支援事業の影響もあり、「甲府商工会議所LOBO調査」の全体業況DIは好調を推移しており、「2023年景気予測調査」でも半数以上の事業所が2023年は改善傾向と予測している。しかし、円安や物価高騰の影響により、仕入単価DIは本年度終始低調であり、コメントからも人流による業況感と実際の経常利益のズレに不安を感じている事業者が多数いる結果となった。景気予測悪化傾向の理由としても「化石燃料、電力等エネルギーコストの上昇」や「円安・物価高騰の更なる進展」が上位となっており、コロナ禍への対応支援だけでなく、物価やコストの高騰を改善できるかどうか地域経済を大きく左右すると思われる。